

地域自治区制度の目的（条例により、市長の権限に属する事務を分掌させる）

～自主自立のまちづくりを進めていくための仕組み

制度のポイント

1. 身近な地域単位に「地域自治区」を設置。
2. 各区に地域協議会を設置。
3. 各区に担当する事務所を設置。

設置のメリット

1. 住民意見を取りまとめ。
2. 市長が意見聴取、具申が出来る。
3. 身近な地域情報の共有。
4. 代表機能の強化。

地域自治区の課題について

- ・地域自治区がどの様に機能して行くのかという実体的な経過観察も重要。
- ・首長や議会から地域協議会に一部の決定権限をゆだねるような規定も見られ、地域の主体性を尊重する意味で、興味深い。
- ・首長・議会の二代表制の下で、どの様に位置付けを確立出来るのか、模索する状態が続いている。
- ・事務所、職員の配置、予算等が必要となるが、行政改革を推進している状況では配置するのが難しい。

他市の複数町内会で行われている事業

江別市（江別）	安全な地域づくり事業	（防災マップ作成、要援護者、自主防災活動）
石狩市	通学路等清掃活動	（地域清掃、公園等除草）
青森市	清掃活動 環境づくり 防災訓練等	（草刈り、側溝の泥清掃） （緑化活動～花植栽） （マニュアルの作成等）
八戸市（下長）	防災・防犯活動 子供たちの見守り 清掃活動 交流活動	「防犯訓練、マップの作成等」 （登下校時のこどもの見守り） （草刈り清掃等） （ふれあい活動～待合室）
北見市	福祉活動計画の策定	高齢者支援活動～声かけ訪問 災害時の支援活動～災害支援マップの作成

※ 今後、地域自治・地域コミュニティのあり方については、

後期計画の様々な事業を推進していく中で、防災関係で検討すると、単一町内会で出来る町内会と出来ない町内会が出てきており、今、安心安全の見守り活動を実施している状況のなかで、地域単位の住民活動が自治の重要な担い手であり、これを守り育てるよう努力しなければならないと考えます。

地域連絡協議会は・・・

地域連絡協議会は、市内（名寄地区）7つの小学校区域を基本にして、校区エリアの町内会長を中心に組織されています。

市民が主役のまちづくりを進めるためには、市民の皆さんがまちづくりに参加する機会や市がどういった仕事をしようとしているのか、進めているのかなどの内容を知る機会が増えることが必要です。

地域連絡協議会は、そうした機会や場の一つになることを目的としています。

地域連絡協議会が目指す役割 ①

① 町内会の枠をこえた活動の取り組み

町内会が担っている役割や地域ぐるみの力を大事にしながら、さらに広い区域でも活動できる。また広い区域のほうが解決に向けて有効である。そうした活動区域の拡大の必要性を訴え、地域連絡協議会が設立されました。

小学校区域で活動するにあたっては、構成する町内会の数など、区域ごとにそれぞれ環境が異なっていますので、地域に合った活動を模索しながら動き出しています。

- ・智恵文地区町内会連絡協議会 : 清掃活動、防犯活動等
- ・南地区地域づくり協議会 : 通学路の清掃等、スノーランタン、防災の取り組み
安全安心の見守り活動
- ・東地区連絡協議会 : スノーランタン、防災連絡体制等、
- ・西地区連絡協議会 : 防災マップ（要援護者）、西区便りの発行等
- ・中名寄地域づくり協議会 : 地域美化活動、防犯活動、世代間交流活動等
- ・西小地区連絡協議会 : 防災対策、天文台見学（交流事業）等
- ・北地区連絡協議会 : 独居・高齢者対策等

地域連絡協議会が目指す役割 ②

② 自分たちが暮らす地域の課題やまちづくりに関して、地域住民の意見を行政に反映させる場

地域連絡協議会は、市民の意見を反映する場としてまちづくりに参加する機会の一つになると同時に、まちづくりについて考える場になることを目指しています。